

とやまファン俱楽部

会報 No.39
2025



CONTENTS

リレーエッセイ 37 / 石田 晋太郎	2P
第28回とやまファン俱楽部会員交流会	3P
会員交流広場	4P
第42回「とやま賞」	5P
「夢の卵」育成事業、みらいの起業家マインド育成塾	6P
富山県からのお知らせ	7P

「富山ちや、なーんもないちや」

石田 晋太郎さん



プロフィール

1978年富山市生まれ
小中高12年内8年を海外で過ごす。
総合商社、食品メーカーを経て、現在ウニノミクス株式会社代表取締役社長。
ウニの異常増殖により海藻が食い荒らされ砂漠化してしまう「磯焼け」問題対策として、磯焼け地域の身入りが不十分なウニを陸上で蓄養して販売する事業を展開中。



縁あって富山県出身若手県人会代表を経験した後にとやまファン俱楽部の世話をさせていただいている。高校まで育った場所が出身地とのイメージが一般的だとすると自分の経歴は全く当てはまらず、母親の里帰り出産で富山で産まれたのち基本は東京をベースとしながら小・中・高12年のうち8年以上を海外で育っている。念のため「出身地」という言葉を辞書で調べると「その人が生まれた土地。また、育った土地。」(→デジタル大辞泉)小学館刊 2025.11.5検索)とのことで一応富山を出身地と言つても良いようだが、おこがましく感じおり「とやまファン」を公言させていただくほうが心地よく思っている。

ただ昔は海外で毎日のように周りの人間から「日本はどんなところなのか」と聞かれる中で、自分が富山という場所から来たということをむしろ自分から言つて行つたときに頭に浮かぶのが、東京の密集した住宅やビル群ではなく、富山の山と海と田畠だった。幼い自分で、「山に行きたい」と言えば雪の残る世界に連れられて、行つてもらえる、まさに夢のような

場所が富山だった。当時の祖母の家は富山市内であつたが、当時は雪かきをするところに横からい穴を掘るだけを作り、「かまくら」を作ればのあぜ道を通り川で遊んだり、富山の日常が本当に新鮮だった。そしてこんな素敵なお場所をたくさん的人に伝えたいと小学校のころから思つていた。

中学で海外のインターナショナルスクールに行くと、むしろ周りの人達こそ自分たちの出身地を積極的に語つていた。特に強く、自分の土地のおすすめメニューや、酒、それをはぐくんだ環境について30分くらい語るのは当たり前。自分も日本や富山について語れないといけないという意識を強くした。

だが富山の人には富山のことを聞くと、返つくる答えは決まって「なーんもなーいや」。本当は大抵の人が水も魚も米も富山が一番だと思っていて、「東京で魚を食えない」など内心思つてゐるのに人は言わない。ただ富山の人人が特に奥ゆかしいのかと、必ずしもそうではなく、むしろ日本人が自分の文化について語れないもしくは関心が薄いと実感つてゐる。

雑誌で富山の広告を出したとして購買行動や旅行にとづいた行動につながるのは、1%を下回るだろうが、人から直接きっかけで数倍になるはずである。これが知人の紹介であつたりすれば10%以上になるかもしれない。私は若手県人会の代表を引き受けた3年間で、「会員一人一人を観光大使にする」を目標にして活動を行つた。毎年敢えて一つの市や町のみをフィーチャーし、観光地、酒蔵、飲食店等を回る1泊2日のツアーやを開催したところ好評でリピート希望者が多く出た。一方である年の1300人参加者を集めたパーティーにおいては全10市町村を代表する食材を1つずつ勝手に選び、ビュッフェの中に入れることで多彩なメニューを提供した。富山県は国指定の伝統工芸品が6

つ（漆器、銅器、和紙、彫刻、菅笠、木挽物）あり、織物や焼物も誇るべきものがある。更に世界遺産の集落や国宝の寺、アーチ、海と山とその恵みの食までもが狭い地域に詰まつてゐる。日本酒も東部は端麗辛口を得意とする越後杜氏の流れで、西部は濃醇を特徴とする能登杜氏の流れを汲む酒蔵があり、色々な食事とのマリアージュを楽しめる味わいが県内酒蔵から得られる。故に外国人が「日本」に求められるものほぼすべてが富山にあると言えます。たとえば、富山の2週間のハネムーン日程から半ば強引に2泊3日をもつて、日本に来た旅行者は富山県だけに1週間滞在しても退屈することなく、むしろ混雑もない中で日本を深く理解する経験を提供できると私は信じている。富山県人ととやまファン俱楽部メンバーには是非自信を持つて言ってほしい。「富山ちや、なーんもないちや」でかいとあるちゃ」。



南砺市五箇山地域の合掌集落にて

第28回 とやまファン俱楽部 会員交流会

TOYAMA FAN CLUB

開会挨拶



大田代表世話人

知事挨拶



新田知事

乾杯



会場の様子



新入会員の皆様紹介



お楽しみ抽選会



日本橋とやま館、いきいき富山館PR





当財団では、富山県の置県百年(昭和58年)を記念して富山県ならびに日本の将来を担う有為な人材の育成に資する目的で「とやま賞」を創設し、昭和59年の第1回から今まで42回目を迎えました。

受賞対象者は、富山県出身者、または富山県内在住者で、学術研究、科学技術、文化・芸術、スポーツの分野において、顕著な業績を挙げ、かつ、将来の活躍が期待される人に対して、賞状、奨励金を贈呈して、その活動を奨励しております。

令和7年度の贈呈式は、5月19日(月)に富山市のパレプラン高志会館で行われ、学術研究部門で5名の方々が受賞されました。

第42回受賞者

学術研究部門 医薬・生命科学分野(免疫学)

東京理科大学 生命医科学研究所 分子病態部門 助教

室 龍之介 氏

「炎症性Y δ T細胞の分化を促進する分子メカニズムの解明」



学術研究部門 医薬・生命科学分野(消化器病学)

Helmholtz Zentrum München, Institute of Metabolism and Cell Death ポストドクター

山田 直也 氏

「フェロトーシスを標的とした難病克服とがん治療の革新への取り組み」



学術研究部門 理工分野(化学)

東京大学総括プロジェクト機構「革新分子技術」総括寄付講座 特任准教授

中室 貴幸 氏

「分子動態の電顕映像解析による化学の新境地」



文化・芸術部門 (舞踊)

(有)ジャンクション

中川 賢 氏

「舞踊家・振付家として革新的作品の舞台表現者として第一線で活躍し、今後の舞台芸術を担う」



スポーツ部門 (バスケットボール)

B.LEAGUE 長崎ヴェルカ

馬場 雄大 氏

「秀でた競技内容・成績」



石塚選考委員長より選考経過報告



新田知事より贈呈



受賞記念講演

会員交流広場

～皆様からのメッセージの一部を紹介～

令和7年度の会員交流会(7月16日(水)開催)のご案内にあわせて皆様からいただきましたメッセージを、当財団のホームページ「とやまファン俱楽部会員交流コーナー」(<https://www.t-hito.or.jp/zaidan/jinzai/fan/05x.html>)に掲載させていただいております。

昨年暮、久し振りに帰郷して、晴天にも恵まれ、立山連峰の景観を目の当たりにできました。

とくに氷見海岸からの対岸に遠くそびえる連峰は壮観で、世界に類をみない圧巻だと思います。

立山、広い平野、海(富山湾)、どこを見ても他県にない観光資源である。どのようなガイドを作り、線で結ぶか知恵をしぼるべきです。平野では、特色ある作物、菓子、果物、新しい工場見学、古くて著名な工場を輝かせてください。

富山県には素晴らしいものがたくさんあります。お水、お米、お酒、そしてそれを作り上げる自然。

しかし、それよりもっともと素晴らしいのは、富山県に住んでおられる人々です。私はいつもそう思っております。

新幹線のお陰で、何か用事があればすぐに富山県(氷見・高岡)に出掛けます。本当に近く感じます。雨晴の景色が大好きです。

ニューヨークタイムズにのった事は「空前絶後」!!この機会を生かし、大いに内外に強引にPR作戦を展開し、「日本一の富山」を宣伝すること。あります!!

地元富山を熱く盛り上げているプロバスケットボールチーム、富山グラウジーズ。B1昇格を果たし、彼らの活躍は、大きな活気と感動を与えてくれています。この活気を原動力に、私も共に富山を盛り上げていきたいと思っています。

人生100年時代です。縁豊かな富山平野で、アルプスや日本海に接して育つことで、高齢になつても元気で過せます。

立山の雄姿、雪の大谷、シロエビ、ブリ…。約1年の滞在でしたが、思い出深い地です。またゆっくり訪れたい。

義母の三回忌が金沢であります。息子と一緒に富山の飲み屋で飲みました。富山の地酒と刺し身で…。息子が就職して以来20年ぶりでした。感無量でした。帰りに富山のお米をどつさり持たせてやりました。(笑)

NYタイムズ「世界の行くべき旅先」で富山市が選ばれたと聞き嬉しく思いました。今後も、インバウンドの増加、国際都市を目指し、魅力的な施策を期待しています。

今年も暑い夏がやってきます。世界で最も美しい湾---有磯海から望むアルプス。立山連峰を思い出すと、冷気が心の中に入ります。明日への勇気が増します

能登半島地震で被災された皆様に心よりお見舞申しあげます。1日も早く平穏な生活を取り戻せる事を願っております。

「とやまファン俱楽部」新入会員ご紹介のお願い

当俱楽部では、会員ネットワークのさらなる拡充を目指し、会員の皆様に新入会員のご紹介をお願いしております。富山県外在住で、とやまを愛し、応援してくださる方がいらっしゃいましたら、是非、事務局までご紹介ください。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

連絡先：(公財)富山県ひとづくり財団 とやまファン俱楽部事務局
(☎076-444-2000, E-mail:n.kato@t-hito.or.jp)



問合先

■事務局

公益財団法人 富山県ひとづくり財団
〒930-0018 富山県富山市千歳町1-5-1 富山県教育記念館2階
TEL076-444-2000 / FAX076-444-2001
E-mail:toyama@t-hito.or.jp <https://www.t-hito.or.jp/zaidan/index.html>



■連絡所

富山県知事政策局総合政策課
〒930-8501 富山市新総曲輪1-7
TEL076-444-4494 / FAX076-444-3473

富山県首都圏本部
〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-3 都道府県会館13階
TEL03-5212-9030 / FAX03-5212-9029

富山県大阪事務所
〒550-0004 大阪府大阪市西区鞠本町1-9-15 近畿富山会館2階
TEL06-6445-2811 / FAX06-6445-2611

富山県名古屋事務所
〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄4-1-1 中日ビル5階
TEL052-261-4237 / FAX052-263-7308

賛助会員の募集

ひとづくり財団からのお知らせ

(公財)富山県ひとづくり財団では、学校教育との連携を図りながら元気で創造性豊かな子どもの育成をはじめ、明日の富山県を拓くひとづくりの事業に銳意取り組んでおります。これらの趣旨にご理解いただき、ご支援、ご協力いただける賛助会員を下記のとおり募集しております。

多くの皆様のご賛同、ご入会をよろしくお願ひいたします。



■年会費: 法人会員 年一口 30,000円
個人会員 年一口 3,000円

■特典:機関誌の配布、イベント等の開催案内、各種報告書等の配布

■申込方法:入会いただける方は、財団へご連絡ください。

(TEL076-444-2000、E-mail:toyama@t-hito.or.jp)